

阿佐ヶ谷美術専門学校同窓会
2003年度第4回常任幹事会議事録

●日時
2003年10月11日(土) 15:00~17:00

●場所
阿佐ヶ谷美術専門学校 地下B1教室

●出席者
秋元圭一 [会長]
西田一成 [常任幹事]
日野 高 [副会長]
渡部証明 [常任幹事]
甲斐光省 [副会長]
松岡和彦 [常任幹事]
浜村圭一 [常任幹事]
三浦嘉久 [常任幹事]
小山 弘 [常任幹事]
中島かおる [常任幹事]
角谷祥子 [常任幹事]
岸 明美 [常任幹事]
藤原成理 [常任幹事]
大村政幸 [幹事]

●委任欠席
土橋洋一 (→秋元氏)
浅見 博 (→西田氏)
目須田 修 (→西田氏)
菊池 満

川島昭作 (→西田氏)

常任幹事出席者13名
委任欠席者6名
定足数成立

●議事進行
議長・進行/小山 弘
●書記/西尾雅江・小山優子

●議題
議題1/
会則変更について

議題2/
総会&パーティーについて

議題3/
その他

次回日程

議題1/会則変更について

秋元会長より2003年度同窓会総会&パーティ案内の刷り上がり及び総会計画案(別紙)が配付された。総会の報告、承認事項として会員総数、事業報告、2002年度決算報告、2003年度予算案、2003年度常任幹事会構成、その他に承認事項として会則の一部改定を提案する旨の文章を盛り込んだ。提案事項→第9章(会則の変更及び解散)の会則内容の変更を行う。

また幹事会(俗に言う連絡幹事)の役割のあり方も会員にきちんと知らせ認識してもらい、新卒業生にも同窓会で何をしてもらいたいかを的確に伝える。「(秋元)今後の会則変更に関しては会則改定検討委員会で検討してもらい会長→事務局へ伝えるという手段をとりたい。またメール等でかまわないので提案があれば送ってほしい」と述べた。

議題2/総会&パーティについて

秋元氏よりパーティ案内のシール出し、発送を中島氏の会社へ依頼したとのコメントがあった。「(日野)ネットでの出欠の受付はしているのか?」「(秋元)次回は行きたいが今回は行っていない」「(日野)ネットのほうが回収率が高いので次回は是非併用したい」などの意見が挙がった。

●感謝式(その後、名称をアサビアワードに決定)の検討

感謝式にノミネートする活躍している人物(団体)をどのように選定するかについての検討に入った。進行担当の浜村氏からは「朝の会」、「あの会」、山崎氏、おすぎ氏、寺田氏、竹谷氏、佐藤氏などが挙げられた。「(日野)おすぎ氏は早めにスケジュールを押さえないとむずかしいのではないか」「(浜村)映像の山崎氏はプロジェクターを用意し作品を作る上での苦労話などを講演してもらっては。また松岡氏との掛け合いなども考えられる。また人物がある学年にかたよらないように「あの会」などの団体からも選出したい」「(日野)「あの会」というくりでみるのは同窓会としておかしいのでは?」「(浜村)同窓生の中で集まっている団体なので紹介するのはよいのではないか」との意見の後、甲斐氏から「朝の会」の会員の中には阿佐美以外の会員もあり、会員の推薦、また審査により入会できるものだが、現在聴講生は他の大学からも1名いるという現状説明があった。

●同窓生の紹介とエントリー制アピールタイムの検討

ここで同窓生の紹介方法として、せっかくの機会なのでこんな活躍をしている人がいるということを紹介してもいいのではないだろうか、1時間内に一人10分として6名くらいでどうだろう?という提案が上がり「(秋元)1時間裂いて延々と聞いている状況をつくるのはよくない。振り向く人もいるかもしれないが雑談などで結局は聞いていないことになる」と紹介した方にとっても失礼「(日野)紹介をなぜ何のためにするのかをきちんと確認したい。また、おすぎ氏を連れてくるよりは新人を探し出して紹介したほうがよい。その為の選考の基準を決めたい」「(西田)アルコールが入る前なら聞いてくれると思うが実際は聞いていないとなるとやはり紹介する方においても失礼だ。たとえばA4程度のものに紹介して壁にはり出すとか。会員全員が同窓生なので作家だけが壇上にあがるのはどうかと思う。またおすぎ氏はお金の支払いが必要だ」という反対意見。また、新たな提案として「(藤原)パーティを盛り上げるといってであれば話したい人がエントリーして話せるというのはどうか」「(浜村)その件は案内状の中にはうたっていないので公平さが無い」「(藤原)根回しをした上で当日受付のところに張り出すかWeb上に載せておけば公平性は保たれる」と述べたあと、多数がこのエントリー制に賛成した。

●感謝式の必要性和選定方法の検討

その後、感謝式の必要性が議論され「(松岡)公平性はまったく必要無く同窓会が卒業生に何ができるのか人脈を現わして認識させる為にすべきだ。最初はしかけが必要であり、マスコミに出ている人がわかりやすいのでは。たとえば桑沢のように同窓生の展覧会として桑沢賞のトロフィーがあるのが面白い。ただ単にパーティ、連帯意識をあたためるだけではなく、そういう場を提供することによって自分も阿佐美の卒業生なんだということを認識させたい」「(日野)絵画科の参加が少ない。絵画科もデザイン科同様に同窓生という意識を持ってもらえるようにしたい。座談会、パネルディスカッションなどを駆使し学校とは何かという位置づけになるようなアイデアを幹事会で提案すべきだ」「(松岡)今年賞を設けてその話題づくりとするところは価値があると思う」「(秋元)今後そのような事実にもとづいて審査判定がルール化できればよい。今回は前例がないので見送りたい。」「(日野)今回は審査がないので前段階の企画として行えればよい」「(秋元)出てきた意見は同窓会活動の一貫として念頭においている。たとえば山崎氏をピックアップし壇上で話しをしてもらうのをきっかけに今

後こういう賞を同窓会で制定していきたいという話しはできると思う」「(松岡)たとえ批判されてもよいので今回から取り入れるべきだ」「(角谷)はたして感謝される側はうれしいのか？なぜ同窓会から感謝されるのか。次のアクションをおこす為のきっかけになるならよいが。申告性にしたらどうか」「(秋元)選ぶ側がどうこう、受け取る側がどうこうというのではなく卒業生に対してのPRとしたい。またこういうことを目的に選考していることを示したい」「(日野)何賞か名前を決めてもよい。今年はとりあえず有名な人では」「(秋元)自薦、他薦いずれも可。それに対し同窓会として冠を提供することをしたい」「(渡部)今回は今回なりの賞を位置付け、今年どんな賞であれやることに意義がある」「(中島)“総会パーティをそろそろやるか”という発想だがなぜ集まるのか根本の意味を含めておく必要がある。今回のテーマは何なのか、前回委員会の紹介をしたが今回も同じ形で終わるのはどうか。集まる意味を内部でしっかりつくりたい」などの意見が出され、整理する意味で議長がまず、感謝式を行うかどうかを再確認するための決をとり、行うことで承認された。

●感謝式の内容の検討と決定

議論の末、まず感謝式の最初の選出として、長い間、絵画科同窓生の活躍の場となった「朝の会」に感謝の意を示す事となった。これに伴い、絵画科の方々への一層の参加を促すための方法の検討に入った。「(松岡)今現在、あの会のように朝の会で活躍している方はいますか？」との質問に対し「(甲斐)あげてもらいたいのはいいが、ギャラリーのほとんどがデザイン科ではさみしい。このDMでどれだけひっぱれるかもわからない。絵画科会員に一筆書いてもいいのだが…」「(中島)休み明け14日9時30分より封入作業をするのでそれまでに用意してもらえれば間に合う」「(甲斐)もし予算が許せばはがき1枚を会員が返事を出す前位のタイミングに対処できるように出したいし、是非この機会を利用したい」「(秋元)現状の学校のシステムに合わせて同窓会としても全体を統括したい。そのような意味でも朝の会を紹介してもらい甲斐氏からのメッセージとしてはがきを出してもらうのは意義がある」「(甲斐)ある程度予算が見込まれるのならすることは可能だ」などの意見が交換され小山氏より絵画科をひっぱるチャンスである。甲斐氏よりはがきを送ることでよいか。という意見が出されたところ藤原氏より「イメージクリエイション科はどうか？」「(秋元)当然不公平。イメージクリエイション科からもアピールがあれば対応、検討できる」「(日野)今回は来てもらうのが目的だ。はがき対応はよいと思う」という意見の後、「(秋元)今回は朝の会、山崎氏という1グループ+個人を紹介したい。甲斐氏が中心となつてはがきでPRしてもらいたい」ここで渡部氏、松岡氏より「紹介」なのか「表彰」なのかという意見が出され「(浜村)表彰しますという方が紹介しやすい」「(中島)活躍されているので紹介がよい。実体は近似値だしイベント的だ」「(渡部)表彰のほうがり上がった感じがするし第1回目なので表彰のほうがり意義がある」「(日野)第1回、2回と言いやすい。履歴にもなる」などの意見が出された。「(秋元)今回は紹介にとどめたかったがそれはそれでよい」「(西田)積極的に前向きに阿佐美の名を言ってくれる方がよい。また名称はたとえば“阿佐美同窓会賞”という差のつかない名前がよい。選考は常任幹事会でノミネートする方式がよい」との意見でまとまった後、議長が決をとり、表彰、紹介は表彰で決定。感謝式で表彰するのは朝の会、山崎氏ということで決定した。また予算を「(秋元)今回限定として絵画科の予算を発送・制作費¥50,000としたい。」ということもあわせて決定した。

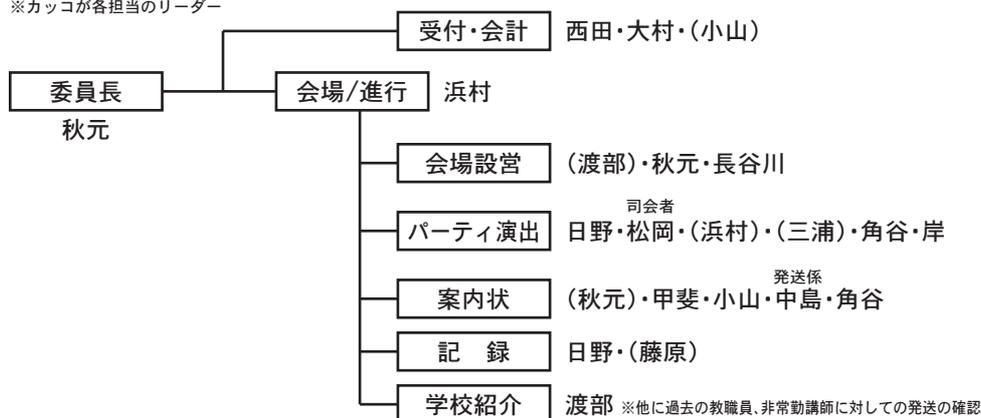
●他余興について

阿佐美に関するクイズ、全員参加のもの、2次回費用捻出の為の賞金がからむものなどの提案に対し、前回は数回行った数回クイズは時間がかかりすぎたのと評判がよくなかった。またお金を受け取った人がどのように持ち帰ったのかも考えものだ。などの意見が出された。「(秋元)商品を買って提供するのであれば今のうちに決めたい。パーティは正味3時間、8時に終わらせて8時30分には撤収。総会は最初の15~30分を予定しているので2時間30分位はとれる。表彰を30分位として1時間50分。歓談にあててもよいが…」「(松岡)先程の告知を兼ねたアピールタイムを30分くらい設けては」「(藤原)受付BOXに集めて公平にするのはどうか」商品を出すのであれば早急に探さなくてはいけない。商品は年輩の方には好評だった。あまり細かくせず1~3等くらいにとどめるのがよい。などの意見が出た後、中身と商品の準備に関しては担当者にまかせることとした。

●各担当の決定

渡部氏から総会&パーティにおける担当を決定しようとの意見があり、以下のように決定した。

※カッコが各担当のリーダー



さらに、渡部氏からパーティ事前の最終確認、集まりは必要かとの質問に対し秋元会長より個々の集まりにおいて掌握しておけばよいとの意見があり確認した。西田氏からも案内の再送、会費について名札を領収書がわりにするのか、受け付けをどうするのかなど。また出席者にきめ細かな対応ができるようテーブルの配分なども充分検討してほしいと小山氏に確認をした。それに対し秋元氏より現場は前回のものがあるのでそれを利用すればよいとのコメントがあった。渡部氏からも会場の下見、最終確認ができればよいとの意見があった。

●制作物の確認

浜村氏より7畳分のパネルが使えるとの意見があり阿佐美の年表的なものを作ってはどうかという提案があった。それに対し「(秋元)日本装飾美術の紹介はしなくてよいのか」との確認があり「(藤原)提携化しているものがないので必要がない」とのこと。「(秋元)しかし姉妹校なので招待しているのでは…?もし取り入れたものを作るのならこちらで制作しなければならない。また学校紹介は今後にとっても必要だし欲しい」ということも述べた。その件に関しては小黒校長、菊池校長に確認することとなった。制作にあたっては必要に応じて召集する。

●予算等に関して

全予算¥3,050,000、個々の予算に関しては秋元会長より後日メールで配信することとなった。また松岡氏からも今日決まったメンバーリストとアドレスを配信してほしいとの依頼があった。

議題3/その他

最後に、総会&パーティーについて「(秋元)web上でもパーティーのお知らせをしてほしい」「(藤原)今回、会則の改正のメリットなどをきちんと提示し、同窓会の意義や、同窓会は我々に何をしてくれるのかなど、会長からのメッセージのようなものが必要に思う」「(松岡)まず、会を開くことに意義がある。会則改定は同窓会を認識させる重要なステップだと思う」「(西田)総会とパーティは本来分けて行うもの。理想としては総会で、同窓会としての方針を伝えられればよい。数年おきの総会&パーティーの開催も、ようやく軌道にのってきたのだからこのまま続けるべきだ」などの要望や意見を交わした。

次回日程

12月6日(土)15:00~の幹事会日時の確認をして議会は閉会した。

●議事録

書記/西尾雅江

校正/制作/秋元圭一・小山 弘

文責/秋元圭一・小山 弘